



今週のPOINT

国内株式市場

過熱感を警戒しつつも一段の上昇を見込む

今週の分析銘柄 - FISCO Selection 8 -

YKT【JASDAQ 2693】ほか

テーマ別分析

世界最大規模の家電・IT見本市「CES2018」が開幕

話題のレポート

2018年はスポーツが熱い！

スクリーニング分析

キャッシュリッチで自社株買い実施期待の高い銘柄

需給妙味のある銘柄には相対的に買い安心感

1	今週の市場見通し	国内株式市場	マーケット概観	3	
			新興市場	4	
		米国株式市場		5	
		為替市場	米ドル/円予想レンジ	6	
		債券市場	債券先物・長期国債利回り予想レンジ	6	
2	マーケットを読む	今週のポイント		7	
		日経平均株価		8	
3	今週の分析銘柄	FISCO Selection	YKT 〈2693〉 JASDAQ	9	
			ニッポン高度紙工業 〈3891〉 JASDAQ	10	
			マネーフォワード 〈3994〉 マザーズ	11	
			マルマエ 〈6264〉 東証2部	12	
			フルテック 〈6546〉 東証2部	13	
			ソニー 〈6758〉 東証1部	14	
			菊水電子工業 〈6912〉 JASDAQ	15	
			安永 〈7271〉 東証1部	16	
			読者の気になる銘柄	ファーストリテイリング 〈9983〉 東証1部	17
				野村ホールディングス 〈8604〉 東証1部	17
			テクニカル妙味銘柄	インフォテリア 〈3853〉 マザーズ	18
		信越化学工業 〈4063〉 東証1部	18		
4	カテゴリー考察	テーマ別分析		19	
		スクリーニング分析		20	
		先週の話題レポート		21	
		信用需給動向		22	
5	連載コラム			23	

過熱感を警戒しつつも一段の上昇を見込む

■2018年相場は好スタート、バブル崩壊後高値を更新

2018年相場は好スタートとなった。大発会の日経平均は、700円を超える大幅上昇となり、昨年11月9日ザラバ高値23382.15円を突破し、1992年1月以来の23500円を回復した。4日の米国市場ではNYダウが初の25000ドルに乗せるなか、この流れを受けた5日の日経平均は大幅続伸で23700円台を回復するなど、連日でバブル崩壊後の高値を更新した。

■過熱警戒もリスク選好の地合いが続く

日本が休場中の海外市場の上昇や原油高等が刺激材料となり、日経平均は一気にもち合いレンジを上げている。インデックスに絡んだ商いが中心であるため、今後の米国市場の動向次第では大きく値を消すリスクは警戒されそうだが、良好な需給状況のなかではショートポジションは禁物だろう。また、北朝鮮情勢についても、少なからず平昌五輪が終わるまでは、ミサイル発射といった動きはなさそうであり、リスク選好の地合いが続きそうである。

■米FANG株への資金流入が再燃

注目された米雇用統計では、非農業部門就業者数は前月比14万8000人増加、失業率は変わらずの4.1%だった。就業者数は市場予想(19万人)を下回ったが、失業率は低水準を維持しているほか、民間部門の平均時給の前年同月比伸び率も2.5%と改善傾向が続いている。5日のNYダウは200ドルを超える上昇となり、年初からの上げ幅は570ドルを超えている。米国では昨年末の節税対策の売りが通過する一方で、1月効果と呼ばれるアノマリーがあり、株価上昇率が統計的に高いことが知られている。年末の損失確定の反動に加えて、相対的に国内企業の割合が多い小型株は税制改革による恩恵を受けることが予想される。昨年末には利益確定の流れが強まっていたアマゾンやアップルといったFANG株への資金流入が再燃しており、この流れからファナックやソニー、ソフトバンクG、TDKなど主力大型株には海外勢の資金流入が意識される。また、米国では今後決算シーズンを迎えることもあり、業績上振れ期待なども支援材料になる可能性がありそうだ。

■オプションSQを控えショートカバーが強まる展開

一方で米国市場同様、日経平均についても短期的には過熱警戒感が意識されるものの、インデックスに絡んだ商いによるものであり、日経平均の上昇ほど、個人投資家は積極的に買い上がったとは考えづらい面はある。楽観的というよりは過熱感を警戒している状況だろう。それ故に需給は大きく買いに傾きづらく、反対にショートポジションが積み上がりやすいところであろう。そのため、過熱感を警戒しつつも一段の上昇が見込めそうだ。今週のオプションSQ(特別清算指数算出)を前に、ショートカバーが強まる展開も意識しておきたい。

■1991年以來の25000円が意識されてくる

日経平均は1992年の高値23800円処まであと70円程度に迫ってきている。これをクリアしてくると、次のターゲットは1991年以來の25000円が意識されてくることになる。また、物色についてもテーマ株が循環的に買われているが、こちらも上値追いつきというよりは、調整一巡感のある銘柄や出遅れ感のある銘柄等に向かいやすい。先行して上昇していた銘柄への利益確定を進めつつ、出遅れ銘柄を見直すことにより、市場全体の底上げといった流れが期待されそうだ。

■IoTやAI、自動運転、EV、次世代電池などの関連銘柄へ

経済スケジュールでは、10日に米輸入物価指数(12月)、米卸売在庫(11月)、11日に都心オフィス空室率(12月)、景気動向指数(11月)、米生産者物価指数(12月)、米財政収支(12月)、ユーロ圏鉱工業生産(11月)、12日に米消費者物価指数(12月)、米小売売上高(12月)、中国貿易収支(12月)等が予定されている。また、イベントとしては国際家電見本市「CES」(ラスベガス、9日から12日まで)が予定されているほか、10日に独メルセデスの新モデル発表会、11日に独アウディの新年会見、また、東京オートサロンが幕張メッセで12日から14日まで開催される。IoTやAI(人工知能)、自動運転、EV、次世代電池といった関連銘柄への手掛かり材料になりそうだ。その他、年初から仮想通貨関連への物色が強まっており、関連銘柄への関心も引き続き高まることになりそうだ。

マザーズ指数 11年ぶり高値でなお先高感、18年最初のIPO発表も

■マザーズ指数は昨年来高値更新で上値妙味広がる

今週の新興市場は、相場全体の先高期待が再燃していることや投資家のリスク選好姿勢が強まっていることなどから、引き続きしっかりした展開となりそうだ。マザーズ指数は足元でおよそ11年ぶりの高値水準となっている。昨年来高値更新により上値妙味が広がり、需給状況も良好だろう。材料性のある銘柄やテーマ株、直近IPO銘柄などに値幅取り狙いの物色が循環的に向かいそうだ。

今週は1月10日にアイケイ<2722>、ANAP<3189>、フロイント産業<6312>、放電精密加工研究所<6469>、GameWith<6552>、11日にUUUM<3990>、幸和製作所<7807>、12日にフィル・カンパニー<3267>、串カツ田中<3547>、ロコンド<3558>、SHIFT<3697>、レイ<4317>、ペイカレント・コンサルティング<6532>などが決算発表を予定している。米国では9日から世界最大の家電・IT見本市「CES」が開催され、人工知能(AI)、IoT(モノのインターネット)、自動運転等の関連銘柄にも関心が向かいそうだ。

■18年最初のIPOは2月8日上場の世紀

IPO関連では、18年最初の新規上場案件が発表されている。世紀<6234>が2月8日にマザーズへ新規上場する。マザーズ上場案件としては公開規模がやや大きく、IPOで人気の業種とも言いづらい。しかし例年、最初のIPOは注目度が高く、強い初値形成となる傾向がある。良好な市場環境も追い風になるとみられ、今後の動向に注目したい。

マザーズ指数



串カツ田中<3547>



ロコンド<3558>





10-12 月期決算発表シーズンに突入

■先週の動き

米株式市場は2日から通常取引となった。週初は米景気への楽観的な見通しが根強く買いが先行。為替相場でドル安が進行したことが好感されたほか、ハイテク株に買いが広がり上昇。週半ばに入り、アジア・欧州株が概ね全面高となるなど世界的に投資家のリスク選好姿勢が強まったほか、新年に入り、投資資金が流入すると期待も相場を押し上げ、上げ幅を拡大した。FOMC 議事録では、数人の委員が足元の低調なインフレ基調に懸念を示した一方で、減税による更なる経済成長が指摘された。大半が年内の緩やかな利上げ継続を支持する見方を示した。週末にかけて、雇用統計で非農業部門雇用者数が予想を大幅に下振れた一方で、平均時給が前月比で増加するなど労働情勢の改善が好感され、堅調推移となった。結局、週を通じて主要株価は上昇。ダウ、ナスダック総合指数、S&P500 指数が揃って最高値を更新した。

■今週の見通し

先週は、雇用統計で非農業部門雇用者数が予想を大幅に下振れたものの、平均時給が前月より伸びたことから、FF 金利の先物取引から算出される利上げ確率は3月と6月の年2回を予想する向きから変化しなかった。FOMC 議事録では大半の委員が年内の緩やかな利上げ継続を支持する見方が示された。12月に税制改革法案が成立し、FOMC の見通しにも減税の影響が盛り込まれた一方で、インフレ率には上昇の兆しが出ておらず、経済指標から利上げ時期を占う展開が続きそうだ。

北朝鮮情勢に進展があり、平昌五輪参加や五輪開催期間の米韓合同軍事演習の延期合意など緊張緩和から地政学リスクが後退しつつある。9日に南北会談が開催予定だが、北朝鮮が対話の姿勢を示せば、ミサイル発射や軍事衝突への発展

といったリスクが低下し、投資家のリスク選好姿勢が一段と強まるだろう。

ダウ構成銘柄では、大手行の JP モルガン・チェース(12日)を皮切りに10-12月期決算発表シーズンに入る。資産運用のブラックロック(12日)やウェルズ・ファーゴ(12日)などの金融各社などの決算発表が予定されている。金融機関の一部は税制改革による繰延税金資産の評価見直しで短期的な利益減少を発表しているが、利上げ等の影響も加味した長期的な業績見通しの発表に注目したい。また、決算発表シーズンに入ることで主要企業の足元の業績や見通しに注目が集まるため、株価収益率(PER)などで割安感のある銘柄の株価水準が見直されるだろう。

経済指標では、12月輸入物価指数(10日)、12月生産者物価指数(11日)、12月消費者物価指数(12日)、12月小売売上高(12日)などの発表が予定されている。低失業率や株式市場の活況を受けて年末商戦期は好調となり、12月の小売売上高は予想を上回る内容が期待できそうだ。オンライン販売の台頭による業績不振や店舗閉鎖が懸念されていた百貨店のメーシーズや JC ペニーは既存店売上高の成長が確認されており、小売株を物色する動きが広がりそうだ。また小売業は税制改革による利益の押し上げも期待できる。

9日から12日にかけて、ラスベガスで世界最大規模の国際家電見本市(CES)が開催される予定だ。昨年に Amazon Echo や Google Home など人工知能(AI)スピーカーが普及し始めたことから、スマートホーム関連分野が目玉となりそうだ。また、次世代ネットワークとなる第5世代移動通信(5G)についてクアルコム、ベライゾン、パイドゥからの基調講演が予定されている。5Gが実用化すれば、コンテンツの充実度に加えて、通信速度の向上などインターネットサービスやアクセス方法の利便性が向上するため、注目したい。

為替市場

米ドル・円 予想レンジ

112.00 円 ~ 114.50 円

今週のドル・円はもみあいか。米連邦準備制度理事会（FRB）による今年の利上げペースに思惑が交錯し、方向感の乏しい展開となりそうだ。また、ユーロ圏経済の回復を見込んだユーロ買いが継続するか注目される。昨年12月12-13日に開かれた連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨には、FRBによる利上げ継続方針堅持の姿勢が示されていた。反面、2月のイエレンFRB議長交代など人事刷新が予定されており、今後の金融政策に大きな影響を与えるとの見方も市場の一部にあるようだ。

このような状況下で、市場参加者は12月の米生産者物価指数と米消費者物価指数などのインフレ関連指標を点検し、FRBの金利正常化作業の進捗状況を慎重に見極めることになりそうだ。消費者物価指数は、改善基調が続いているが、今回の指標でインフレ加速の兆候が確認された場合、早期追加利上げへの期待は一層高まることが予想される。

一方、昨年末からトランプ政策への期待剥落でドルは伸び悩んでおり、対照的にユーロは金利先高観の台頭で買われるケースが目立つ。このため、ユーロ圏の11月小売売上高、11月失

業率などの経済指標や欧州中央銀行（ECB）理事会議事要旨の内容次第では、ユーロ圏経済の回復基調の持続やECBによる早期利上げへの思惑がさらに広がる可能性がある。ユーロ・ドルは心理的な節目である1ユーロ=1.20ドル水準を上抜けているが、さらなる上昇（ユーロ高）が見込まれる展開となった場合、ドル高・円安が進行することは難しくなりそうだ。

【米・12月生産者物価コア指数】（11日発表予定）

11日発表の12月生産者物価コア指数は前年比+2.5%程度が市場コンセンサス。市場予想を上回った場合、成長持続を背景に早期追加利上げ期待が高まり、ドルを押し上げる見通し。

【米・12月消費者物価コア指数】（12日発表予定）

12日発表の12月消費者物価コア指数は、改善基調が続くか注目される。11月は前年比+1.7%となった。コア指数が市場予想を上回った場合、金利正常化方針を後押しする材料として好感されよう。

債券市場

債券先物予想レンジ

150.50 円 ~ 150.90 円

長期国債利回り予想レンジ

0.04 % ~ 0.09 %

■先週の動き

債券相場はもみ合い。年初で2日間の取引となったことから、現物債の売買は動意薄の状態が続いた。国内外の株式市場が強い動きを見せたことから、長期債などの気配は弱含み。10日に行われる10年国債入札に備えて、一部業者筋のポジション調整的な売買が観測された。

■今週の見通し

債券相場は弱含みか。10年国債と40年国債の入札が行なわれることから、長期ゾーンのカーブスティーピングを想定した取引がやや活発となりそうだ。短期的に超長期債の需給関係は悪化するとの見方が増えており、この影響で10年債の利回り水準はやや上昇する可能性がある。10日に行われる10年国

債入札が低調な結果となった場合、40年国債の入札状況にも悪影響を及ぼす可能性がある。

10年債については0.08%近辺で一定規模の需要が期待されているようだが、世界経済の順調な回復を想定して主要国の株式市場が強い動きを見せた場合、10年債利回りは0.1%近辺までじり高となる可能性がある。また、一部の市場関係者は「40年国債入札の参加者は少なくなっており、10年国債入札が無難な結果になっても40年国債の入札状況については予断を持ってない状況になりつつある」と指摘している。

債券先物は主に150円台後半で推移か。40年国債入札が無事通過すれば、債券先物は底堅い動きとなりそうだが、株高・円安の相場展開となった場合、昨年12月21日につけた150円53銭の直近安値を下回る可能性があるので注意したい。

新春相場は好スタート、引き続きハイテク関連や期待テーマの関連株など注目

昨年最終週の日経平均は非常に膠着感の広がる展開となった。海外株式市場や為替相場が小動き、目立った手掛かり材料もないなか、動意に乏しい状況であった。ただ、大発会は大幅高、昨年11月9日に付けたザラバ高値23382円を上回った。年明け後の米国市場はIT・ハイテク株を中心に上昇し、2018年相場への期待感が一気に高まる格好となった。主力株のみならず、仮想通貨や全固体電池、カジノなど、今年の期待テーマに対する注目度も高まっていた。

個別では、小売りセクターを中心とした決算銘柄に関心が高まった。高島屋、象印、Jフロント、飛島建設、日カーボン、カーリット、津田駒、三益半導体、ミタチ産業、ヒマラヤ、サイボウズ、スターティア、レーザーテックなどが、好決算や業績修正、観測報道を受けて買い優勢となっていた。一方、ニトリHD、しまむら、あさひ、ストライク、平和堂、DCMH、板硝子、アダストリア、ジーンズメイト、ローソン、大東建託などは弱材料視された。12月の売上成長鈍化が嫌気されて、百貨店株が総じて売られる場面も見られた。ほか、原油や銅市況の上昇で資源関連株も強い動きとなり、川重、レオン、イマジカロボ、カシオ、ゴールドウィンなどはアナリストの好評価が材料視された。テーマ株では、「水素基本戦略」を受けて関連銘柄が買われたほか、仮想通貨リップルの上昇で、SBIHDなどの関連銘柄が大発会に賑わった。オハラやガス化は全固体電池関連として買われた。

週末の米国市場は雇用統計を受けて上昇しており、週明けの東京市場には安心感が強まろう。引き続き上値追いつ姿勢は強まりやすい状況といえる。半導体などのハイテク株や注目のテーマ銘柄などを中心に物色意欲が強まろう。イベント的には、小売りセクターの決算などが注目点となる。9日にはイズミ、10日にはローソンやABCマート、良品計画、サイゼリヤ、11日にはセブンアイ、キューピー、ユニーフアミマ、島忠、コスモス薬、ディップ、不二越、12日にはオンワード、久光などが決算発表予定。ディフェンシブセクターには関心が向かいにくい中、小売株にはポジティブサプライズがない限り、出尽くし感へとつながる可能性に注意だろう。ハイテク株や設備投資関連の10-12月期決算を占ううえでは不二越の決算にも注目。米国ではJPモルガンやウェルズファーゴなど早くも10-12月期の決算発表が始まる。

週末には中国の貿易収支も発表されるが、中国の景気動向次第では、資源関連株にとってフォローともなっていこう。ビットコイン価格も週末にかけて上昇しており、引き続き仮想通貨関連への物色意欲も強まるとみられる。また、米国小売売上高などにも注目、クリスマス商戦の動向が明らかとなり、米個人消費関連などの手掛かり材料となっていこう。なお、短期的な過熱感が反映される状況となれば、IPOの空白期間で短期調整も進んだ直近IPO銘柄の値幅取りの動きなども注目される。

先週動いた銘柄・セクター（東証1部・個別銘柄は他市場が優先市場のものを除く）

上昇率上位銘柄				下落率上位銘柄				業種別騰落率	
コード	銘柄	終値(円)	騰落率(%)	コード	銘柄	終値(円)	騰落率(%)	上位セクター	騰落率(%)
3393	スターティア	1,338.0	34.20	9854	愛眼	600.0	-17.24	証券業	5.99
3696	セレス	2,760.0	29.94	2884	ヨシムラ・フード・HD	6,650.0	-14.08	非鉄金属	5.15
4284	ソルクシーズ	1,760.0	29.41	2685	アダストリア	2,221.0	-12.28	海運業	5.08
3916	D・I・M	2,789.0	28.23	1435	インベスターズクラウド	1,503.0	-10.11	鉄鋼	4.91
1606	日本海洋掘削	2,749.0	27.39	7247	ミクニ	754.0	-9.81	鋳業	4.79
6272	レオン自動車	2,348.0	26.37	6208	石川製作所	3,180.0	-9.14	石油・石炭製品	4.75
3321	ミタチ産業	2,083.0	26.01	2597	ユニカフェ	1,258.0	-8.91	精密機器	4.41
3654	ヒト・コミュニケーション	3,090.0	25.87	2882	イートアンド	2,223.0	-8.89	下位セクター	騰落率(%)
4776	サイボウズ	630.0	23.53	6203	豊和工業	1,629.0	-8.64	ゴム製品	-1.62
6088	シグマクス	1,210.0	23.22	8227	しまむら	12,290.0	-8.56	水産・農林業	0.01
3963	シンクロ・フード	3,120.0	22.40	3667	enish	1,308.0	-8.47	食料品	0.18
3433	トーカロ	5,950.0	21.30	3082	きちり	786.0	-8.39	空運業	0.42
1805	飛島建設	194.0	21.25	6078	バリューHR	2,313.0	-8.03	サービス業	0.99
6920	レーザーテック	3,450.0	20.08	3672	オルトプラス	1,004.0	-7.81	小売業	1.13
6200	インソース	3,920.0	19.88	3686	ディー・エル・イー	477.0	-7.02	倉庫・運輸関連業	1.51

91年10月戻り高値 25000 円処が次のターゲット

■1992年1月高値突破が射程に

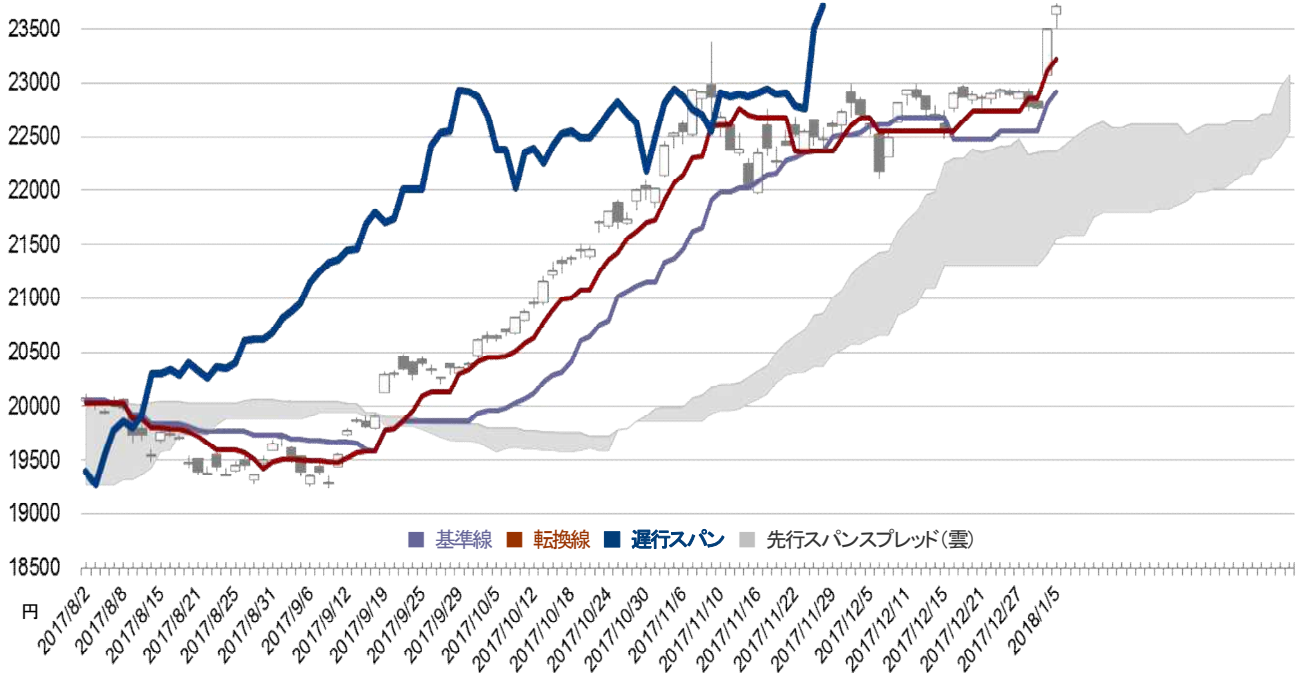
2018年相場は好スタートを切った。17年の年末は22500-23000円処でのもち合いが続いていたが、大発会から一気にこのもち合いレンジを上放れ、2日間の上げ幅は950円弱となった。大発会は高値引けとなったほか、5日についてもほぼ高値圏で取引を終えており、東証1部の売買代金は連日で3兆円を超えた。日経平均はバブル後の最高値を更新する格好だが、1992年1月高値が23800円処に位置している。これを突破してくると91年10月の戻り高値水準である25000円処が次のターゲットとして意識されてくる。ボリンジャーバンドでは一気に+3σレベルまで上昇しており、短期的には過熱感が警戒されやすいところである。しかし、昨年後半でのもち合いが長かったこともあって、バンドが横ばい推移だったため、想定されていた面はある。一方で、週間形状ではもち合いの中で13週線に接近しており、同線を支持線にもち合いを上放れた格好。ボリンジャーバンドでは+1σからの上放れにより、+2σに接近する形状である。+2σは24040円辺りまで切り上がっており、過熱感こそ

れほど警戒するところではない。

また、海外投資家の売買動向だが、12月第3週は現物株と先物合算で2450億円の買い越し（前週は916億円の売り越し）となった。これにより海外投資家は7週ぶりに買い越しとなっている。前週までで売り越し額が減少傾向にあったとはいえ、先週の大幅上昇を牽引した投資主体としても海外投資家の買い越しへの転換が意識される場所である。

日経平均はマドを空けての上昇でもち合いレンジを上放れており、目先のな上昇一巡後は、下値支持線に変わった23000円を試す可能性はある。24000円まで上昇した後に、その後の調整で23000円まで下げた場合、この下落分をリプレイスしたターゲットは25000円となるため、調整局面では押し目拾いのスタンスとなるだろう。さらに、長期的なトレンドではあるが、25000円をクリアしてくると91年高値の27150円辺りが新たなターゲットとなり、これをクリアすると、いよいよ1990年の大陰線を埋めるトレンドから38700円処が現実味を帯びてこよう。

一目均衡表（日経平均）



YKT <2693> JASDAQ

官民挙げての量子コンピューターへの取り組みに注目

■量子コンピューター研究用機器で実績

独立系の機械専門商社。子会社でレーザー・光通信機器・光ケーブルなどの輸入商社であるサンインストゥルメントが、量子コンピューター研究用の極低温低雑音増幅器で理化学研究所と取引実績があることなどから、関連銘柄の一角として注目。昨年11月にはNTTが国立情報学研究所などと共同開発した量子コンピューターを一般公開しているほか、経産省は2018年度から、国内での量子コンピューターの専門人材の発掘・支援を強化するなど、官民挙げての量子コンピューターの実用化への取り組みが、関連銘柄への支援材料になるだろう。

■もち合いレンジからの上放れに期待

株価は昨年11月下旬に向けてマドを空けての強いトレンドが継続し、300円処から11月28日には899円まで急伸。その後は調整が続いているが、足元で25日線を突破してきており、

売買単位	100 株
1/5 終値	653 円
目標株価	800 円
業種	卸売

600-700円処でのもち合いレンジからの上放れに期待。11月以降の調整分の3分の2戻しを若干ブレイクした800円を目標とする。

★リスク要因

テーマ株物色の移り変わり。

2693: 日足

上値抵抗の25日を突破。5日線との短期ゴールデンクロスを意識。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2013/12連	7,099	-11.7%	-221	-213	-	-169	-
2014/12連	8,700	22.6%	21	57	-	-13	-
2015/12連	10,518	20.9%	393	418	633.3%	223	18.86
2016/12連	9,870	-6.2%	410	463	10.8%	274	23.10
2017/12連予	9,600	-2.7%	160	180	-61.1%	100	8.41

ニッポン高度紙工業〈3891〉JASDAQ

好業績とEV関連のテーマ性で更なる上値期待

■上期は営業益6.6倍、通期では一段の上振れ期待

アルミ電解コンデンサや電気二重層キャパシタ、電池用のセパレータを手掛けている。電解コンデンサ用セパレータは国内95%、世界60%のシェアを誇る。車載用や産業機器、エアコン用インバータ向けが好調に推移しており、18年3月期の上期(17年4-9月)は売上高が前年同期比15.9%増の85.12億円、営業利益が同6.6倍の9.57億円となった。通期でも営業利益15.00億円(前期比3.0倍)と大幅増益の見通しだが、上期までの進捗を踏まえると一段の上振れが期待されよう。

■EV関連としてなお関心高く年末に高値更新

世界的に電気自動車(EV)などのエコカーへのシフトが進むなか、リチウムイオン電池用セパレータを手掛ける同社も関連銘柄として市場の関心は高い。昨年9月高値2749円を付けてからは調整する場面もあったが、12月末に再び上場来高値2972円を

売買単位	100 株
1/5 終値	2850 円
目標株価	3200 円
業種	パルプ・紙

付けている。今後もテーマ株の循環物色の動きや2月初めに発表される第3四半期決算への期待などから上値を試す展開となりそう。ボリンジャーバンドの+3σ(約3128円)水準をオーバーシュートし、3200円程度まで上昇する場面もあるだろう。

★リスク要因

高値警戒感の台頭。

3891:日足

日足では上昇する5日線を意識した動きを見せている。週足では26週線がサポートに。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2014/3連	12,529	19.9%	364	520	-	240	22.39
2015/3連	12,930	3.2%	547	757	45.6%	443	41.25
2016/3連	11,617	-10.2%	96	129	-83.0%	55	5.20
2017/3連	15,089	29.9%	505	344	166.7%	-454	-
2018/3連予	16,800	11.3%	1,500	1,500	336.0%	1,200	111.56

マネーフォワード〈3994〉マザーズ

家計簿アプリに続く新サービスへの期待が高まる直近 IPO 銘柄

■今年中にも新サービスを提供

昨年末に仮想通貨やブロックチェーンを活用した決済・送金サービスの開発事業部を新たに立ち上げることを発表している。また、同関連サービスの提供を今年中にも開始し、会計ソフトや家計簿アプリに続く事業に育てていく方針であるという。同社は昨年9月の上場時から、新サービスの構築に対する市場期待が高く、今後は足元で人気化している仮想通貨関連としてのテーマ物色の矛先が向かう場面も想定されよう。

■営業赤字は織り込み済みか

主力の個人向け自動家計簿・資産管理サービスの利用者数は550万人(17年9月時点)を突破するなど順調に増加している。また、法人向け会計や給与計算を自動化・効率化するクラウドサービスも好調。15日に発表を控える17年11月期決算では、先行投資や広告宣伝費増加により営業赤字見通したが、こちらは

売買単位	100 株
1/5 終値	3360 円
目標株価	3600 円
業種	情報通信

上場前から伝わっていることもあり、概ね織り込まれているだろう。赤字幅が想定線である場合は、悪材料出尽くしとなる可能性がありそうだ。まずは、昨年11月に付けた高値である3540円を突破する展開に期待し、目標株価を3600円とする。

★リスク要因

想定以上の赤字幅拡大。

3994: 日足

短期ゴールデンクロスを示現。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2013/11単	3	-	-	-106	-	-107	-
2014/11単	76	2433.3%	-	-548	-	-549	-
2015/11単	441	480.3%	-1,120	-1,133	-	-1,142	-
2016/11単	1,542	249.7%	-876	-882	-	-888	-
2017/11連予	2,681	73.9%	-995	-1,006	-	-1,014	-

マルマエ 〈6264〉 東証 2 部

複数のテーマ性を持つ好業績銘柄として注目

■半導体や有機EL向けが好調

半導体・液晶・有機ELの製造装置に使用される真空部品・電極等を主力とする精密部品メーカーである。歪みが許されない精密部品の高度な幾何公差のノウハウに強みをもっており、足元は旺盛な半導体や有機EL需要を取り込んでいる。2018年も市場の重要テーマとして意識されているこれらの分野における部品を取り扱っていることから、関連銘柄として同社へも物色の矛先が向かうことが期待される。

■第1四半期は好調なスタートに

1月5日に発表された18年8月期第1四半期の営業利益は前年同期比183%増の3.18億円と、一部市場予想(2.40億円程度)を大きく上回った。半導体分野で生産設備増強を行ったことによって、受注が拡大したほか、FPD分野の有機ELや第10.5世代液晶パネル向けの受注も順調に推移。通期見直しに対する進捗

売買単位	100 株
1/5 終値	1728 円
目標株価	2000 円
業種	機械

率は、営業利益ベースで約32%と好調な出足をみせた。足元の業績が堅調なうえ、人気テーマ物色などを取り込むことも期待できよう。これらを勘案し、目標株価は次の心理的な節目として意識されやすい2000円とする。

★リスク要因

昨年来高値(1825円)を前にした利食い売り圧力。

6264: 日足

ネックラインの突破目前まで迫る。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2014/8単	1,585	36.4%	267	255	99.2%	302	173.41
2015/8単	2,124	34.0%	450	435	70.6%	559	318.96
2016/8単	2,242	5.6%	488	458	5.3%	363	69.00
2017/8単	3,035	35.4%	764	737	60.9%	538	50.74
2018/8単予	4,000	31.8%	1,000	980	33.0%	668	56.08

フルテック 〈6546〉 東証2部

1部昇格期待もある中小型株として注目へ

■1部昇格による需給期待も

国内証券の一角では、向こう数カ月以内に東証1部に昇格する銘柄を予想しており、なかでも確度の高い銘柄を10銘柄選定している。同社もその中の一社であり、目先は需給期待などが優勢となる展開も想定される。仮に1部昇格の際には、2億円強のパンプファンドの買い需要が発生、売買インパクトは8.5日分と試算されている。同社は自動ドア開閉装置を手掛けており、昨年3月に新規公開したばかりの銘柄である。収益源となるメンテナンスやリニューアルの需要は安定しており、業績は目先順調な成長が期待される。なお、五輪需要などによる新規受注の増加は今後のメンテナンス需要の増加に直結する。

■直近で高値突破と需給妙味

流動性はやや乏しいものの、先月から株価の上昇ピッチが早まり、直近で上場時の初値水準を上回ってきている。需給妙味も

売買単位	100 株
1/5 終値	1265 円
目標株価	1360 円
業種	サービス

膨らむ中、昇格期待を反映する動きは強まりやすいといえよう。PER水準からみて、株価の割高感も感じられない状況にある。昨年12月高値からその後の安値までの倍返し水準となる1360円を短期的な目標株価としたい。

★リスク要因

短期的な過熱感が残る。

6546: 日足

9月高値更新後は上げ幅広げ、高値圏で時間調整の状況に。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2014/3単	9,513	6.4%	-	433	24.1%	-52	-
2015/3連	10,098	-	752	786	-	471	4714.11
2016/3連	10,446	3.4%	806	814	3.6%	424	4244.80
2017/3連	10,420	-0.2%	587	658	-19.2%	334	75.74
2018/3連予	10,750	3.2%	600	691	5.0%	431	80.29

ソニー〈6758〉東証1部

日本版FANG 銘柄への海外資金流入に期待

■CES2018で関心集まる

米国ではアップルやアマゾン、アルファベット、ネットフリックスといったFANG銘柄への物色が再燃しており、日本版FANG銘柄の一角である同社に対しても、海外投資家による資金流入が期待される。また、イベントでは9日から12日に米国ラスベガスで、コンシューマー・テクノロジーにおける最大級の展示会CES2018が開催される。その他、11日から、ソニーストア銀座、札幌、名古屋、大阪、福岡天神で犬型ロボット「aibo」が展示される。写真家による撮影サービス(13、14日)なども行われるようである。AR/VR、センサー、ロボットなどの関連物色も意識されよう。

■2007年の戻り高値を意識したトレンド形成

株価は昨年11月8日高値5485円をピークに、5000円を下限としたもち合いが続いていたが、年初からの上昇でもち合いレンジ

売買単位	100 株
1/5 終値	5464 円
目標株価	6300 円
業種	電気機器

からの上放れが意識されてきている。レンジ突破で一気に需給が軽くなることから、上昇基調が強まる展開が期待される。長期トレンドでは2007年5月の戻り高値7190円処が意識されよう。まずは2008年の陰線を吸収する動きから同年高値6300円を目標とする。

★リスク要因

金融セクター等への資金シフト。

6758: 日足

上値抵抗の25日を突破し、もち合いレンジ上限を捉える。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2014/3連S	7,767,266	14.2%	26,495	25,741	-89.5%	-128,369	-
2015/3連S	8,215,880	5.8%	68,548	39,729	54.3%	-125,980	-
2016/3連S	8,105,712	-1.3%	294,197	304,504	666.5%	147,791	119.40
2017/3連S	7,603,250	-6.2%	288,702	251,619	-17.4%	73,289	58.07
2018/3連S予	8,500,000	11.8%	630,000	600,000	138.5%	380,000	-

菊水電子工業〈6912〉JASDAQ

EV 関連の一角として注目余地

■自動車部品メーカーのEV対応化の動きで恩恵

トヨタが電動車戦略の積極化方針を示すなど、2018 年も引き続き EV が重要な市場テーマとなつてこよう。とりわけ、自動車部品メーカーでは、EV の完全普及によって取扱商品の需要がほとんどなくなるものも出てくるため、電動化に対応するための研究開発投資を積極化させる必要がある。こうしたなかでは、EV 関連分野における研究開発投資の増加で恩恵を受ける銘柄が有望と考えられる。同社は電子計測器メーカーであり、二次電池用の試験装置やモーターやインバーターなどの評価装置を手掛けている。2018 年は短期的な需要急拡大局面を迎える可能性がある。

■PBR水準で割安感も残る

株価は昨年後半に大きく水準訂正を果たしたものの、依然として PBR は 1 倍水準であり、バリュエーションでも十分に買える銘柄

売買単位	100 株
1/5 終値	1098 円
目標株価	1351 円
業種	電気機器

柄と判断できる。今期業績は低調であるが、足元の業績不振は織り込み済みであり、現局面は新年度の業績回復を期待するタイミングだろう。昨年 9 月高値の 1351 円を当面の目標株価と設定したい。

★リスク要因

今期業績には下振れ余地も。

6912: 日足

9 月高値を起点とした下落トレンドは突破し、目先は 25 日線や 75 日線が支持線にも。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2014/3連	7,034	-2.2%	465	485	-27.0%	291	34.03
2015/3連	7,826	11.3%	666	727	49.9%	439	51.61
2016/3連	7,966	1.8%	617	643	-11.6%	455	53.79
2017/3連	7,736	-2.9%	490	468	-27.2%	334	39.79
2018/3連予	7,800	0.8%	460	480	2.6%	315	37.69

安永〈7271〉東証1部

重なるイベント開催で注目

■EV関連銘柄などに物色期待

エンジン部品や工作機械、ハイテク業界向け検査測定装置やワイヤソー等を手掛ける。エアポンプなど環境機器事業も展開。10日に独メルセデスの新モデル発表会、11日に独アウディの新年会見、また、東京オートサロンが幕張メッセで12日から14日まで開催される予定となっている。懸念されていた北朝鮮リスクが後退するなか、電気自動車(EV)ないしリチウムイオン電池関連に引き続き物色が向かう可能性もあり、関連銘柄の一角である同社に注目したい。

■26週線を支えにリバウンド

週足チャートでは、26週線を支えにリバウンドを見せている他、日足チャートでも、足元で株価は5日線と25日線を突破してきている。通期計画が減益予想となっており、市場では警戒感もあるものの、イベントが重なることで、短期的に物色を集める展開

売買単位	100 株
1/5 終値	2812 円
目標株価	3100 円
業種	輸送用機器

に期待したいところ。目標株価は5日終値から約10%上昇した3100円とする。

★リスク要因

業績への警戒感の強まり。

7271:日足

5日線及び25日線を突破。



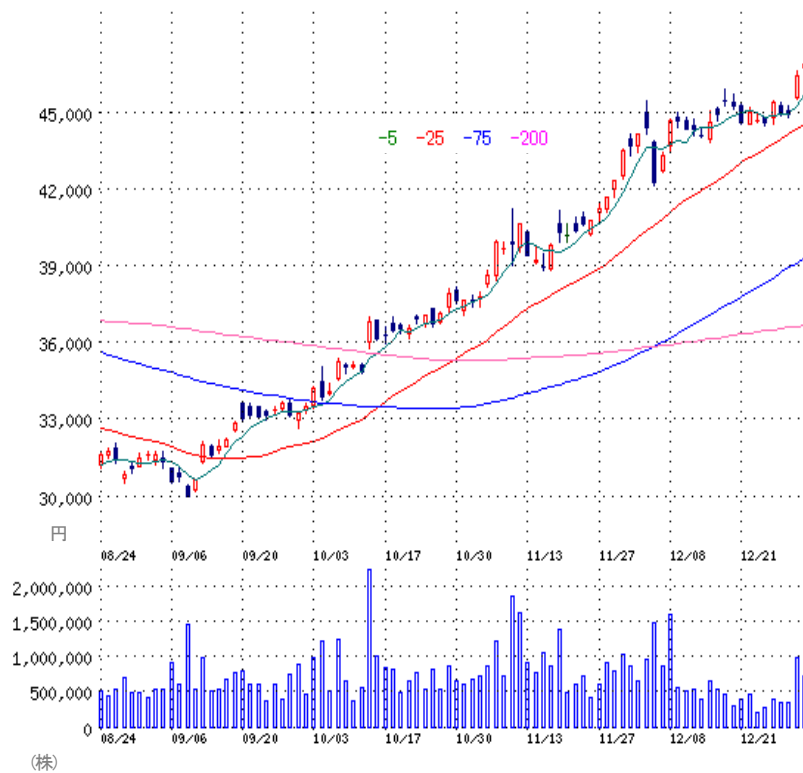
(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2014/3連	31,439	-7.4%	614	680	-	375	31.35
2015/3連	29,605	-5.8%	150	339	-50.1%	86	7.26
2016/3連	30,913	4.4%	373	-158	-	-614	-
2017/3連	34,019	10.0%	1,469	1,125	-	341	28.56
2018/3連予	33,500	-1.5%	1,200	1,000	-11.1%	700	58.51

ファーストリテイリング 東証1部<9983>/12月の既存店好調をポジティブ視

先週末に12月の月次動向を発表している。既存店増収率は前年同月比18.1%増となり、10月、11月の同8.9%増から伸び率が加速化する状況となった。客数が同13.5%増、客単価が同4.0%の上昇となっている。12月の気温が低下したことで、ヒートテックやフリースなどの冬物商品の販売が好調に推移したもよう。

昨年、一昨年と暖冬に見舞われたことで、ハードルが低くなっていたものの、ネガティブ視された百貨店各社の動向や他の衣料品専門店との比較では伸び率が突出しており、ポジティブな見方が強まる可能性は高いだろう。ECを中心とするダイレクト販売も大幅増になったとみられ、前月からの増収率回復も安心感につながる見通し。引き続き、日経平均を主導する展開が目先は継続していくものとみられる。



野村ホールディングス 東証1部<8604>/米系証券の評価引き上げで出遅れ修正へ

年初からの株式市場の活況を受けて、先週末には11月9日の戻り高値を更新、昨年5月以来の水準にまで上昇している。ただ、高値を更新している日経平均との比較では依然として出遅れ感が強く、さらなる水準訂正の動きなどが期待できよう。

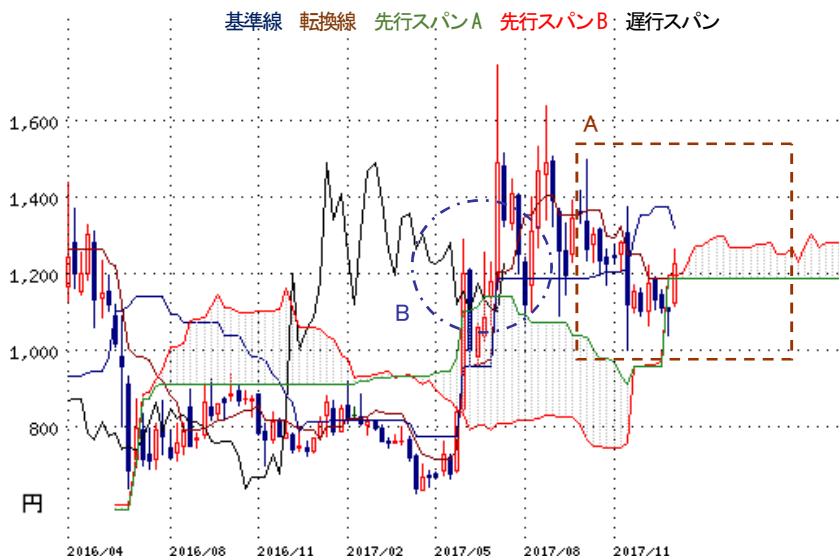
先週末には、一部の米系証券で投資判断買い推奨格上げの動きが観測されている。自己株取得を加味したBPS成長と比較すると株価に出遅れ感があると判断しているもよう。また、10-12月期の純利益は621億円と予想しており、7-9月期の518億円から大きく拡大すると予想している。3連休明けで市場参加者も一段と回帰、売買代金の増加も見込めるため、今後は全体相場との連動性も強まっていくことになりそうだ。米金融機関の決算発表がスタートすることも期待材料視される余地がある。



インフォテリア

マザーズ<3853>

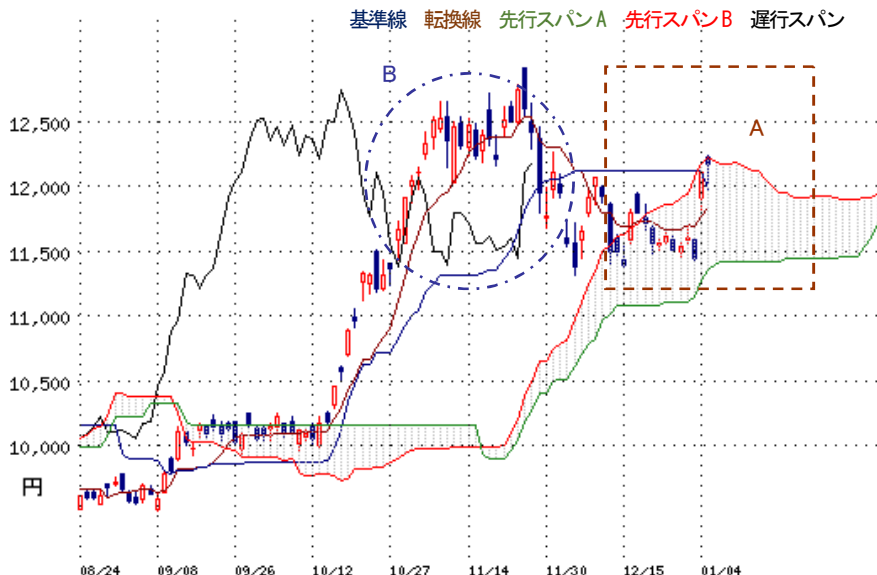
週足ベースの一目均衡表。昨年7月高値 1745 円をピークに調整トレンドが続いていたが、1000 円処をボトムに底堅さが意識されている。昨年末には、雲のねじれの局面で雲を割り込む格好となり、シグナルが悪化したが、年初のリバウンドにより、転換線及び雲を突破した（点線・四角A）。現時点では調整トレンドラインの上限であり、シグナル好転は見極めが必要だが、基準線を捉えてくるようだと、トレンド転換となる。ただし、遅行スパンは実線を下回って推移しているため、強弱感是对立しやすい（点線・丸B）。



信越化学工業

東証1部<4063>

日足ベースの一目均衡表。昨年11月27日高値 12915 円をピークに調整トレンドが継続。12月半ばに雲上限を割り込むと、その後は雲の中での推移が続いている。ただし、11500 円処での底堅さが意識されるなか、雲下限を支持線に年初からのリバウンドで一気に雲上限を捉えている（点線・四角A）。一方、遅行スパンは高値ピークを通過しており、今週にも実線を突破する可能性が高く、上方シグナル発生が意識される（点線・丸B）。雲上限、基準線突破でリバウンド基調が強まろう。



世界最大規模の家電・IT 見本市「CES2018」が開幕

■毎年多くの新製品や技術が発表される

米国では、9日（火）から12日（金）までネバダ州ラスベガスで世界最大の家電やITの見本市である「CES」が開催される。世界中から3900社もの企業が参加予定であり、出展ブースやショーでは毎年多くの新製品や技術が発表される。一般公開はされないものの、民生機器テクノロジー業界の関係者が一堂に会する世界最大規模のイベントであることから、市場での注目度は高い。日本企業のなかでは、今年ヤマハ発動機（7272）が初出展し、自動運転機能を備えたカート型のコンセプト車を公開すると発表。かつては「Consumer Electronics Show（家電ショー）」と呼ばれた同家電見本市は、最近では自動車やITなどの家電以外のメーカーが主力となっている。これらを踏まえ、出展企業のほか、自動運転やドローン（小型無人機）、AI（人工知能）やIoT（モノのインターネット）等の関連銘柄にもテーマとして関心が向かう可能性についても意識しておこう。

■主な出展企業とテーマ銘柄

	コード	銘柄	市場	1/5株価 (円)	ポイント
主な出展企業	7201	日産自動車	東証1部	1,149.0	脳波の変化から運転操作を支援する技術を開発
	6752	パナソニック	東証1部	1,719.0	今後の方針などを公開予定、出資先の中国企業が軽量シティーEVを公開
	7272	ヤマハ発動機	東証1部	3,910.0	初出展、カート型自動運転車を公開
	6758	ソニー	東証1部	5,464.0	JOLEDの供給先エイスースが高性能モニターを出展
	7203	トヨタ自動車	東証1部	7,552.0	次世代実験車は「プラットフォーム3.0」を披露
自動運転	6929	日本セラミック	東証1部	2,979.0	車載用超音波センサー
	3698	CRI・モデルウェア	マザーズ	1,958.0	自動車の技術革新に伴う操作音制作
	4667	アイサンテクノロジー	JASDAQ	3,505.0	自動運転の公道実験を実施
	6902	デンソー	東証1部	7,073.0	走行環境認識センサー
	6762	TDK	東証1部	9,730.0	位置情報を把握するセンシング技術
ドローン	6981	村田製作所	東証1部	15,760.0	3次元自車位置推定センサー
	2667	イメージ ワン	JASDAQ	485.0	小型無人飛行機(UAV)を手掛ける
	6770	アルプス電気	東証1部	3,340.0	振動の影響受けにくいセンサー
	7013	IHI	東証1部	3,870.0	高性能ドローンの開発を計画
	9437	NTTドコモ	東証1部	2,724.0	携帯回線を使ったドローンの実証実験
AI	9474	ゼンリン	東証1部	4,190.0	ドローンハイウェイ構想
	2158	FRONTEO	マザーズ	708.0	人の思考と行動を自動解析する人工知能を開発
	3773	アドバンスト・メディア	マザーズ	1,876.0	音声認証ソリューション
	3938	LINE	東証1部	4,830.0	AIスピーカー「Wave」
	6753	シャープ	東証1部	3,925.0	音声対話型AI
IoT	6628	オンキヨー	JASDAQ	150.0	「アレクサ」搭載のAIスピーカー
	3694	オブティム	東証1部	2,681.0	IoTプラットフォームサービス
	3914	JIG-SAW	マザーズ	5,230.0	IoT自動アクティブ監視サービス
	6736	サン電子	JASDAQ	718.0	M2M通信機器及びIoTソリューションの販売
	3823	アクロディア	東証2部	340.0	インターホン向けIoTシステム
	4726	ソフトバンク・テクノロジー	東証1部	1,997.0	セキュアIoTプラットフォーム
	3046	ジンズ	東証1部	5,770.0	メガネ型端末IoT
4288	アズジェント	JASDAQ	2,593.0	コネクテッドカー向けセキュリティ関連サービス	

出所：フィスコ作成

キャッシュリッチで自社株買い実施期待の高い銘柄

■需給妙味のある銘柄には相対的に買い安心感

全般的な株高傾向が続く中、利益確定売り圧力などへの懸念も強まるが、需給妙味の強い銘柄には相対的に買い安心感が強いといえる。今後も引き続き自社株買い実施銘柄には注目度が高まりやすいと考えられよう。時価総額に対してネットキャッシュの大きい銘柄には自社株買い余力があり、とりわけ、増益基調が続く業績好調銘柄、ROE が低く資産効率を高める必要のある銘柄などには、今後の自社株買い実施の可能性が相対的に高いと判断される。

スクリーニング要件としては、①ネットキャッシュが時価総額の50%以上、②ROEが7%以下、③前期実績、今期見通しともに営業増益、④東証1・2部、JASDAQ、マザーズ銘柄。

■自社株買い期待の銘柄群

コード	銘柄	市場	1/5株価 (円)	時価総額 (億円)	ネットキャッシュ /時価総額 (%)	ROE (%)
1762	高松コンストラク	東証1部	3,140.0	1,220.8	63.4	6.85
1868	三井ホーム	東証1部	776.0	514.9	85.1	6.22
6306	日工	東証1部	2,400.0	192.0	55.4	4.61
6382	トリニティ工業	東証2部	988.0	180.0	77.0	6.99
7297	カーメイト	JASDAQ	1,337.0	106.0	52.9	0.79
7521	ムサシ	JASDAQ	1,897.0	150.8	100.8	2.91
7877	永大化工	JASDAQ	390.0	28.5	63.2	2.38
7885	タカノ	東証1部	1,177.0	185.0	57.1	3.05
8249	テクノアソシエ	東証2部	1,354.0	271.3	51.6	5.52
9709	NCS & A	東証2部	413.0	82.6	82.5	2.77
9872	北恵	東証2部	824.0	82.5	107.9	4.91

出所：フィスコアプリより作成

2018 年はスポーツが熱い！

■冬季五輪とFIFA ワールドカップ

SMBC 日興証券では、2018 年はスポーツ観戦が盛り上がりそうだと指摘。2 月 9-25 日に開催される冬季五輪（平昌）では、フィギュアスケートを始め世界新記録が相次ぐ女子スピードスケートなどが大いに注目されよう。また、3 月 9-18 日にはパラリンピックが予定されているほか、6 月から 7 月にかけては FIFA ワールドカップ（ロシア）の開催も控えている。これらの世界的なスポーツイベントをきっかけとし、家電エコポイント（2009-2011 年）や地デジ化（2011 年）で購入したテレビの買い替え時期にあたる今年、販売台数の拡大が期待できるという。そのほか、スポーツ関連用品やゲームなどにも追い風になると言及したうえで、スポーツイベント関連消費銘柄の盛り上がり注目している。

■主なスポーツイベント関連銘柄(SMBC 日興証券)

銘柄コード	銘柄略称	1月5日終値(円)	概要
3028	アルペン	2424.0	スポーツ用品小売りの業界最大手。「スポーツデポ」、「アルペン」、「ゴルフ5」を全国展開。スポーツカジュアルにも対応。
3048	ビックカメラ	1643.0	「ビックロ(ユニクロとコラボ)」など新規店舗展開に積極的。テレビ販売は堅調に推移。
4324	電通	4840.0	広告代理店で国内最大手、世界5位。テレビ媒体の仕入れ力では圧倒的。FIFAワールドカップの日本での放送権を保有。
4680	ラウンドワン	1953.0	娯楽サービス大手。ボウリング、ゲーム、カラオケのほか、時間制スポーツ施設を手掛ける。
6752	パナソニック	1719.0	ワールドワイドオリンピックパートナーの1社。4K有機ELテレビ「ビエラ」を手掛ける。
6758	ソニー	5464.0	4K有機ELテレビ「ブラビア」を手掛ける。テレビの高付加価値モデルへのシフトが業績に寄与。
7936	アシックス	1824.0	冬季オリンピック・パラリンピックの日本代表オフィシャルスポーツウェアを手掛ける。ランニングシューズは国内外で人気。
9202	ANA	4737.0	旅客数は国内・国際ともに首位。フィギュアスケートの羽生結弦選手が所属している。
9404	日テレHD	1976.0	FIFAワールドカップのセネガル戦を生中継する予定。スポーツジム「ティップネス」を手掛ける。
9766	コナミHD	6370.0	「ウイニングイレブン」などサッカー、野球といったスポーツゲームを得意とする。

出所: SMBC 日興証券

売り方、買い方の需給状況が逆転

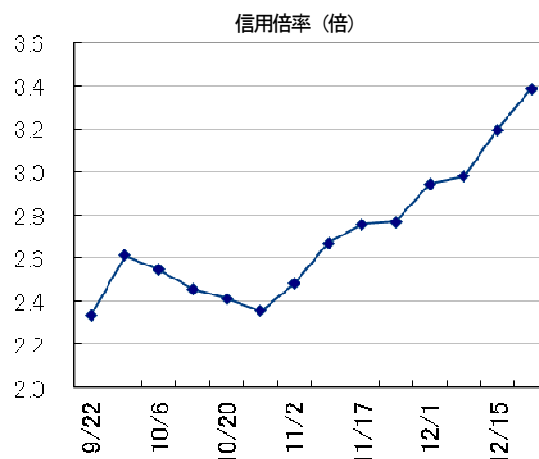
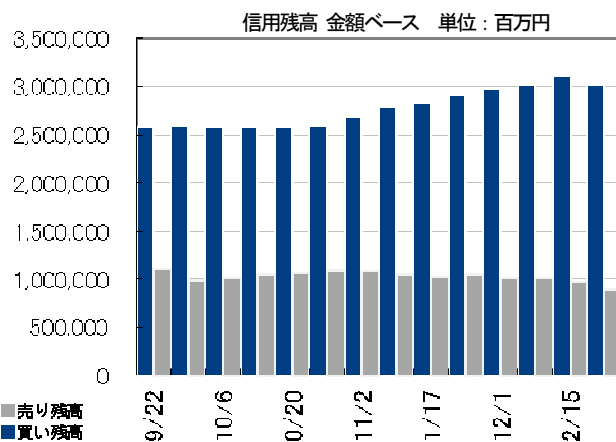
昨年12月22日時点の2市場信用残高は、買い残高が946億円減の3兆0212億円、売り残高が831億円減の8921億円だった。買い残高が9週ぶりに減少し、売り残高が4週連続で減少した。買い方の評価損益率は-6.95%から-3.90%に改善し、売り方の評価損益率は-1.83%から-16.03%と大きく悪化しており、売り方、買い方の需給状況が逆転した。信用倍率が3.19倍から3.39倍に上昇しているが、買い方の需給状況は良好である。

この週(12月18日から22日)の日経平均株価は前週末比349.54円高の22902.76円だった。米税制改革法案の年内成立が意識されるなか、金融セクターのほか、指数インパクトの大きい値がさハイテク株の上昇が、日経平均を押し上げた。ただし、週前半に上昇した後は、高値圏でのもち合いが続いた。

個別では住友鋳<5713>の信用倍率が1.66倍から1.16倍へと取り組みに厚みが増している。資源価格の上昇のほか、リチウムイオン電池関連の一角として関心が向かった。上昇基調が続く中、買い方の買い戻しに対して新規売りが積み上がる格好での理想的な需給改善に。エプソン<6724>は2.49倍から1.80倍に取り組みに厚みが増した。同社社長会見では、大容量インク印刷機の販売目標について、最低2割増を目指すと伝えられた。25日線を意識したリバウンド局面で、新規売りが若干積み上がっている。

取組みが改善した銘柄

コード	市場	銘柄	1/5終値(円)	信用買残(12/22:株)	信用売残(12/22:株)	信用倍率(12/22:倍)	信用買残(12/15:株)	信用売残(12/15:株)	信用倍率(12/15:倍)
4924	東証1部	シーズHD	5,760.0	89,600	356,900	0.25	77,600	129,000	0.60
4751	東証1部	サイバエージ	4,555.0	216,400	444,500	0.49	350,800	450,000	0.78
2801	東証1部	キッコーマン	4,675.0	82,300	237,100	0.35	138,200	256,600	0.54
5713	東証1部	住友鋳	5,490.0	1,199,800	1,029,900	1.16	1,574,700	946,300	1.66
6724	東証1部	エプソン	2,708.0	967,500	537,400	1.80	998,500	400,600	2.49
6412	東証1部	平和	2,090.0	309,200	498,500	0.62	379,000	471,900	0.80
9008	東証1部	京王	5,090.0	21,700	232,600	0.09	25,500	222,400	0.11
2127	東証1部	M&A	5,420.0	465,100	199,100	2.34	470,200	163,900	2.87
7616	東証1部	コロワイド	2,328.0	113,900	538,100	0.21	120,600	471,500	0.26
1925	東証1部	大和ハウス	4,515.0	257,700	314,800	0.82	291,000	293,300	0.99
1606	東証1部	海洋掘削	2,749.0	228,100	364,300	0.63	273,500	359,300	0.76
4541	東証1部	日医工	1,729.0	871,800	869,800	1.00	1,010,700	849,500	1.19
6305	東証1部	日立建	4,280.0	202,700	555,900	0.36	226,900	534,900	0.42
3415	東証1部	トウキョベース	5,240.0	602,300	218,200	2.76	634,200	195,400	3.25
3064	東証1部	MonotaRO	3,690.0	772,900	989,700	0.78	912,100	998,400	0.91



コラム:平成末期の「氷の世界」

この冬は全国的に例年よりも気温の低い日が続く——そんな天気予報をみていたら、井上陽水の名曲『氷の世界』を思い出しました。この曲がリリースされた1973年は今と世相も異なるかと思いきや、重なり合う部分もかなりあることに気づきます。

『氷の世界』は同名のアルバムのタイトル曲で、「軽いウソでもいいから、今日は1日張り詰めた気持ちでいたい」「誰か傷つけたいな」といったアバンギャルドなフレーズが印象的です。サビの「今年の寒さは記録的なもの、毎日吹雪、吹雪」は独特のハリのある歌声で不条理に対するいら立ちや絶望をぶつけ、世間を糾弾しているように聞こえます。このアルバムは、売上が日本の音楽史上初めて100万枚を突破する記録を打ち立てました。

翻って現在の日本。「保育園落ちた、日本死ね」と怒りをぶつける親、ブラック企業に疲れ果てた若者、問答無用に生活保護を減額される家族……株価の上昇に沸き返る世の中から取り残された人々と、この曲は妙に呼応するようです。支持率よりも不支持率の上回った政権が国会では3分の2以上の多数を占める現実など、平成末期に現出した「氷の世界」は、45年前よりも逃げ場が少ないように思えます。

アルバムが発表された1973年を象徴する出来事は、なんといってもオイルショックです。中東戦争で原油価格が急騰し、1955年から続いた日本の高度経済成長は終えんを迎えました。奇しくも現在、トランプ大統領はイスラエルの首都をエルサレムと認定し、中東諸国が反発を強めるきっかけを作ってし

まいりました。昨年末に始まったイランの反政府デモの全土への拡大も気になります。第2次オイルショックはイラン革命が発端でした。

1973年は、日本が変動相場制に移行した年でもあります。アメリカがベトナム戦争の戦費調達負担で財政赤字の膨張と国際収支の赤字転落を招き、ドル・金の交換停止を経て円は1ドル=308円に切り上げられました。ベトナム戦争と同様に泥沼化したイラク戦争もアメリカの財政を圧迫。負の遺産を抱えるトランプ政権は日本を含め貿易黒字国の通貨安政策に圧力を強めています。

45年前は、オイルショックを受け日本経済に終末観が広がったことも特筆されます。『氷の世界』の短調のメロディと地団太を踏むようなテンポは、そうした世相にもよくマッチしたのでしょう。しかし、平成の日本はバブルが崩壊。少子化で人口は減少に転じ、高齢化社会で年金制度は実質破たん、経済規模は世界3位に後退、さらには未曾有の自然災害と、当時の悲観はまだカワイイものでした。

ところで、アルバム『氷の世界』は、曲順にも相当なこだわりがあったようです。エンディングの『おやすみ』は「もうすべて終わっているのに」と、目の前でなお続いている闘いに突き放したような視線を心安らぐメロディに乗せています。しかし、終末観は相変わらずですが、決して「平静」とは言えない平成からようやく新しい時代に向かう道筋が示されています。2018年は、改元に向け希望をもって過ごせるでしょうか。

1	スケジュール	経済カレンダー	2-4
		決算カレンダー	5-7
2	レーティング	格上げ・買い推奨	8
		格下げ・売り推奨	9
3	投資主体別売買動向	総括コメント	10
		市場別データ	11
4	新規上場銘柄	結果とスケジュール	12
5	一目均衡表雲抜け銘柄	雲上抜け銘柄（東証1部）	13
		雲下抜け銘柄（東証1部）	14

1月8日~1月12日※全て日本時間で表示

日付	曜日	時間	内容
1月8日	月	16:00	独・製造業受注(11月)
		17:15	スイス・消費者物価指数(12月)
		19:00	ブ・FGV消費者物価指数(IPC-S)(1月7日まで1カ月間)
		19:00	欧・ユーロ圏消費者信頼感改定値(12月)
		19:00	欧・小売売上高(11月)
		29:00	米・消費者信用残高(11月)
			株式市場は祝日のため休場(成人の日)
			米・アトランタ連銀総裁が講演
			米・サンフランシスコ連銀総裁が講演
			米・ボストン連銀総裁が講演
			露・株式市場は休場
1月9日	火	09:00	毎月勤労統計(11月)
		14:00	消費者態度指数(12月)
		15:45	スイス・失業率(12月)
		16:00	独・鉱工業生産指数(11月)
		16:00	独・貿易収支(11月)
		16:00	独・経常収支(11月)
		19:00	ブ・FGVインフレ率(IGP-DI)(12月)
		19:00	欧・ユーロ圏失業率(11月)
		20:00	ブ・小売売上高(11月)
		20:00	ブ・広義小売売上高(11月)
		24:00	米・JOLT求人件数(11月)
			米・ミネアポリス連銀総裁が講演
			国際家電見本市「CES」(12日まで)
	決算発表 アムジェン		
1月10日	水	10:30	中・消費者物価指数(12月)
		10:30	中・生産者物価指数(12月)
		18:30	英・鉱工業生産指数(11月)
		18:30	英・商品貿易収支(11月)
		20:00	ブ・拡大消費者物価指数(IPCAX)(12月)
		21:00	米・MBA住宅ローン申請指数(先週)
		22:30	米・輸入物価指数(12月)
		24:00	米・卸売在庫(11月)
			決算発表 良品計画、ローソン、イオン
			印・貿易収支(12月、15日までに)
			中・資金調達総額(中国元)(12月、15日までに)
			中・マネーサプライ(12月、15日までに)
			中・元建て新規貸出残高(12月、15日までに)
			米・シカゴ連銀総裁が講演
			米・セントルイス連銀総裁が講演
			欧・欧州中央銀行(ECB)議事要旨公表(15日までに)

1月8日~1月12日※全て日本時間で表示

日付	曜日	時間	内容	
1月11日	木	09:30	豪・小売売上高(11月)	
		13:30	生活意識に関するアンケート調査(日本銀行)	
		14:00	景気動向指数(11月)	
		19:00	ブ・FGVインフレ率(IGP-M、1次プレビュー)(1月)	
		19:00	欧・ユーロ圏鉱工業生産(11月)	
		22:30	米・生産者物価コア指数(12月)	
		22:30	米・新規失業保険申請件数(先週)	
		28:00	米・財政収支(12月)	
				決算発表 7&iHD、ユニファミ、フリテイリ
1月12日	金	08:50	貸出・預金動向(12月、日本銀行)	
		08:50	国際収支(経常収支)(11月)	
		10:00	営業毎旬報告(1月10日現在、日本銀行)	
		17:00	日本銀行が保有する国債の銘柄別残高	
		17:00	日本銀行による国庫短期証券の銘柄別買入額	
		20:00	ブ・IBGEサービス部門売上高(11月)	
		21:00	印・消費者物価指数(12月)	
		22:30	米・消費者物価コア指数(12月)	
		22:30	米・小売売上高(12月)	
		24:00	米・企業在庫(11月)	
				中・貿易収支(12月)
				中・輸入(12月)
				中・輸出(12月)
				米・ボストン連銀総裁が講演
				欧・ECB専門家予測調査公表(18日まで)
		決算発表 ブラックロック、JPモルガン、ウェルズ・ファーゴ		

■(欧)11月ユーロ圏失業率**9日(火)午後7時発表予定**

(予想は、8.8%) 参考となる10月実績は8.8%で9月の8.9%から0.1ポイント低下し、2009年1月以来の低水準となった。ユーロ圏の景気回復は緩やかなペースで進んでおり、失業率が急速に低下する可能性は低いものの、中期的には8%程度まで低下することも予想されている。10月のユーロ圏失業者数は1434万人で9月の1443万人から減少したが、11月の労働参加率が低下した場合、失業率は10月実績の8.8%を下回る可能性がある。

■(日)11月経常収支**12日(金)午前8時50分発表予定**

(予想は、+1兆8361億円) 参考となる10月実績は+2兆1764億円で黒字額は市場予想の1兆7200億円程度を上回った。貿易・サービス収支の黒字幅拡大が経常黒字増加につながった。11月については第一次所得収支の黒字額は10月並みの水準となりそうだが、貿易・サービス収支の黒字額は減少すると予想されており、全体の黒字額はやや減少する見込み。

■(米)12月消費者物価コア指数**12日(金)午後10時30分発表予定**

(予想は、前年比+1.7%) 参考となる11月実績は前年比+1.7%にとどまり、10月実績の+1.8%を下回った。航空運賃や家庭用雑貨の値下がり影響したようだ。12月については、航空運賃は横ばいと予想されるが、一部項目のコスト上昇が反映される可能性があり、コアインフレ率は11月実績をやや上回る可能性がある。

■(米)12月小売売上高**12日(金)午後10時30分発表予定**

(予想は、前月比+0.4%) 参考となる11月実績は前月比+0.8%で市場予想を上回った。家電、スポーツ用品、本、衣料品などの売上増加が寄与した。オンラインストアの売り上げも順調に増加した。12月については、年末商戦はますます順調と伝えられており、市場予想は妥当な水準か。

※括弧内は決算説明会の予定日。なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻	日付	コード	銘柄	上場部名	時刻
1月9日	1712	ダイセキソリュ	東証1部		1月11日	7453	良品計画	東証1部	15:00
	2668	タビオ	東証2部			7465	MV北海道	ジャスダックス	
	2747	北雄ラッキー	ジャスダックス			7512	イオン北海	東証1部	
	2792	ハニーズHD	東証1部			7513	コジマ	東証1部	
	2927	AFC-HD	ジャスダックス			7581	サイゼリヤ	東証1部	
	3148	クリエイトSDH	東証1部			7601	ポプラ	東証1部	
	3186	ネクステージ	東証1部			7718	スター精	東証1部	15:00
	3546	ダイユー・リック	東証1部			7888	三光合成	東証2部	
	4714	リソー教育	東証1部			7975	リヒトラブ	東証2部	
	6093	エスクローAJ	東証1部			8185	チヨダ	東証1部	
	6146	ディスコ(02/06)	東証1部			8198	MV東海	東証2部	
	6496	中北製	東証2部			8254	サイカ屋	東証2部	
	7603	マックハウス	ジャスダックス			8260	井筒屋	東証1部	
	8008	4°C HD	東証1部			8267	イオン	東証1部	16:00
	8125	ワキタ	東証1部			8274	東武ストア	東証1部	
	8278	フジ	東証1部			8287	MV西日本	東証2部	
	8931	和田興産	ジャスダックス			8905	イオンモール	東証1部	13:00
	9793	ダイセキ	東証1部			8923	トーセイ	東証1部	
	9993	ヤマザワ	東証1部			9381	AIT	東証1部	
1月10日	1401	エムピーエス	マザーズ		9414	BS11	東証1部		
	1430	ファーストコボ	東証1部		9717	ジャステック	東証1部		
	2164	地域新聞	ジャスダックスG		9876	コックス	ジャスダックス		
	2417	ツヴァイ	東証2部		9946	ミニストップ	東証1部		
	2462	ライク	東証1部		2153	イージェイHD	東証2部		
	2651	ローソン	東証1部	15:00	2292	SFoods	東証1部		
	2653	イオン九州	ジャスダックス		2303	ドーン	ジャスダックス		
	2670	ABCマート	東証1部		2341	アルバイトタイ	ジャスダックス		
	2686	ジーフット	東証1部		2379	ディップ	東証1部		
	2687	シーヴィエス	東証1部		2459	アウンコンサル	東証2部		
	2722	アイケイ	ジャスダックス		2471	エスプール	ジャスダックス		
	2726	バルグループHD	東証1部		2791	大黒天	東証1部		
	2918	わらべやHD	東証1部		2798	Y'S	東証2部		
	3063	jGroup	マザーズ		2809	キューピー	東証1部	15:00	
	3189	ANAP	ジャスダックス		2830	アラハタ	東証2部		
	3194	キリン堂HD	東証1部		3030	ハブ	東証1部		
	3222	U.S.M.H	東証1部	15:00	3045	カワサキ	東証2部		
	3377	バイク王	東証2部		3046	ジンズ	東証1部		
	3396	フェリシモ	東証1部		3048	ビックカメラ	東証1部		
	3543	コメダ	東証1部		3065	ライフフーズ	ジャスダックス		
	3550	スタジオアタオ	マザーズ		3080	ジェーソン	ジャスダックス		
	3607	クラウドディアHD	東証1部		3192	白鳩	ジャスダックス		
	3645	メディカルネット	マザーズ		3280	エストラスト	東証1部		
	3711	創通	ジャスダックス		3349	コスモス薬品	東証1部		
	3826	システムインテ	東証1部		3376	オンリー	東証1部		
	3892	岡山製紙	ジャスダックス		3382	7&I-HD	東証1部	15:00	
	4668	明光ネット	東証1部		3608	TSIHD	東証1部		
	4745	東京個別	東証1部		3670	協立情報	ジャスダックス		
	5271	トーヨーアサノ	東証2部		3760	ケイブ	ジャスダックス		
	5900	ダイケン	ジャスダックス		3922	PRTIMES	マザーズ		
	5942	日フィルコン	東証1部		3935	エディア	マザーズ		
	6048	デザインワン	東証1部		3990	UUUM	マザーズ		
	6183	ベル24HD	東証1部		4187	大有機	東証1部		
	6199	セラク	東証1部		5932	三協立山	東証1部		
6255	エヌピーシー	マザーズ		6136	OSG	東証1部			
6312	フロイント	ジャスダックス		6173	アクアライン	マザーズ			
6323	ローツェ	東証1部		6289	技研製	東証1部			
6469	放電精密	ジャスダックス		6432	竹内製作	東証1部			
6552	GameWith	マザーズ		6474	不二越	東証1部	15:00		
6734	ニューテック	ジャスダックス		6505	東洋電	東証1部			
7427	エコトレディン	東証1部		7434	オータケ	ジャスダックス			

※括弧内は決算説明会の予定日。なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻	日付	コード	銘柄	上場部名	時刻	
1月11日	7520	エコス	東証1部		1月11日	3454	Fブラザーズ	東証1部		
	7607	進和	東証1部			3501	住江織	東証1部		
	7730	マニー	東証1部			3541	農総研	マザーズ		
	7818	トランザクシヨ	東証1部			3547	串カツ田中	マザーズ		
	8028	ユニー・F	東証1部	13:00		3557	U&C	マザーズ		
	8181	東天紅	東証1部			3558	ロコンド	マザーズ		
	8184	島忠	東証1部			3560	ほぼ日	ジャスダックス		
	8200	リングハット	東証1部			3562	No. 1	ジャスダックス		
	8203	MrMaxHD	東証1部			3606	レナウン	東証1部		
	8237	松屋	東証1部			3627	ネオス	東証1部		
	8273	イズミ	東証1部			3647	ジースリーHD	東証2部		
	8887	リベレステ	ジャスダックス			3697	SHIFT	マザーズ		
	8908	毎コムネット	ジャスダックス			3791	IGポート	ジャスダックス		
	9369	キューソー流通	東証1部			3815	メディ工房	マザーズ		
	9661	歌舞伎	東証2部			3967	エルテス	マザーズ		
	9716	乃村工	東証1部			4530	久光薬	東証1部		
	9740	CSP	東証1部			4577	ダイト	東証1部		
	9765	オオバ	東証1部			4616	川上塗	東証2部		
	9778	昴	ジャスダックス			4728	トーセ	東証1部		
	9812	テーオー小笠原	ジャスダックス			4735	京進	東証2部		
	9861	吉野家HD	東証1部			4760	ALPHA	ジャスダックス		
	9983	ファーストリテイ	東証1部	15:00		4763	クリーク&リバ	東証1部		
	1月12日	1377	サカタのタネ	東証1部			4920	日本色材	ジャスダックス	
		1384	ホクリヨウ	東証1部			4992	北興化	東証1部	
		1407	ウエストHD	ジャスダックス			6058	ベクトル	東証1部	
		1418	インターライフ	ジャスダックス			6064	アクトコール	マザーズ	
		1419	タマホーム	東証1部			6070	キャリアリンク	東証1部	
1434		JESCOHD	東証2部		6150	タケダ機	ジャスダックス			
1919		ヤマダSXL	東証1部		6182	ロゼッタ	マザーズ			
2157		コシダカHD	東証1部		6489	前沢工	東証1部			
2168		パソナ	東証1部		6492	岡野バル	東証2部			
2294		柿安本店	ジャスダックス		6532	ペイカレント	マザーズ			
2337		いちご	東証1部		6668	プラズマ	東証2部			
2338		Fastep	東証2部		6897	ツインバード	東証2部			
2493		イーサポート	ジャスダックス		7420	佐島電機	東証1部			
2706		プロックリー	ジャスダックス		7487	小津産業	東証1部			
2734		サーラ	東証1部		7516	コーナン商事	東証1部			
2735		ワッツ	東証1部		7599	IDOM	東証1部			
2736		サダマツ	ジャスダックス		7608	エスケイ	東証1部			
2769		ヴェレッジV	ジャスダックス		7713	シグマ光機	ジャスダックス			
2796		ファーマライズ	東証1部		7719	東京衡機	東証2部			
2872		セイヒョー	東証2部		7725	インタアクション	東証1部			
2930		北の達人	東証1部		7847	グラファイトD	ジャスダックス			
3021		PCNET	東証2部		7928	旭化学	ジャスダックス			
3073		DDホールディングス	東証1部		7997	くろエ	東証2部			
3087		ドトル日レス	東証1部		8016	オンワードHD	東証1部			
3093		トレファク	東証1部		8095	イワキ	東証1部			
3094		スーパーV	ジャスダックス		8127	ヤマトインタ	東証1部			
3139		ラクトJPN	東証1部		8143	ラピーヌ	東証2部			
3177		ありがとう	ジャスダックス		8167	リテールPT	東証2部			
3198		SFPダイニン	東証2部		8194	ライフコーポ	東証1部			
3201		ニッケ	東証1部		8244	近鉄百	東証1部			
3228		三栄建築	東証1部		8519	ポケットC	東証1部			
3230		スター・マイカ	東証1部		8904	サンヨーナゴヤ	東証1部			
3244		サムティ	東証1部		8940	インテリックス	東証1部			
3266		ファンドクリG	ジャスダックス		9281	タカラインフraf	東証REIT			
3267		フィル・カンパニー	マザーズ		9313	丸八倉	東証2部			
3297		東武住販	ジャスダックス		9519	レノバ	マザーズ			
3387		クリレスHD	東証1部		9601	松竹	東証1部			
3415		トウキョーベース	東証1部		9837	モリト	東証1部			

※括弧内は決算説明会の予定日。なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻	日付	コード	銘柄	上場部名	時刻
1月12日	9924	ドミー	名証2部						
	9945	ブレナス	東証1部						
	9972	アルテック	東証1部						
	9978	文教堂HD	ジャスダックS						
	9979	大庄	東証1部						

格上げ・買い推奨

※下記のレーティングや目標株価は証券各社が発表したもののうち、フィスコが把握したものを集計しています。

日付	証券会社	コード	社名	レーティング	目標株価(円)
12月25日	岡三	4922	コーセー	強気新規	-
	大和	2607	不二製油	3→2格上げ	2200→3800
		3975	AOITYOHD	2新規	-
12月26日	東海東京	3558	ロコンド	OUTPERFORM新規	3800
12月27日	東海東京	1911	住友林	OUTPERFORM新規	2600
	野村	7012	川重	NEUTRAL→BUY格上げ	4300→4800
12月28日	いちよし	5911	横河ブHD	A新規	3800
12月29日	いちよし	2695	くらコーポ	B→A格上げ	6300→8300
1月5日	いちよし	3433	トーカロ	B→A格上げ	4500→7000
		6879	イマジカロボ	A新規	1700
		8111	Gウイン	A新規	13000
	ゴールドマン	6272	レオン自機	コンビクション買い新規	2600
	シティ	6952	カシオ	2→1格上げ	1900

格下げ・売り推奨

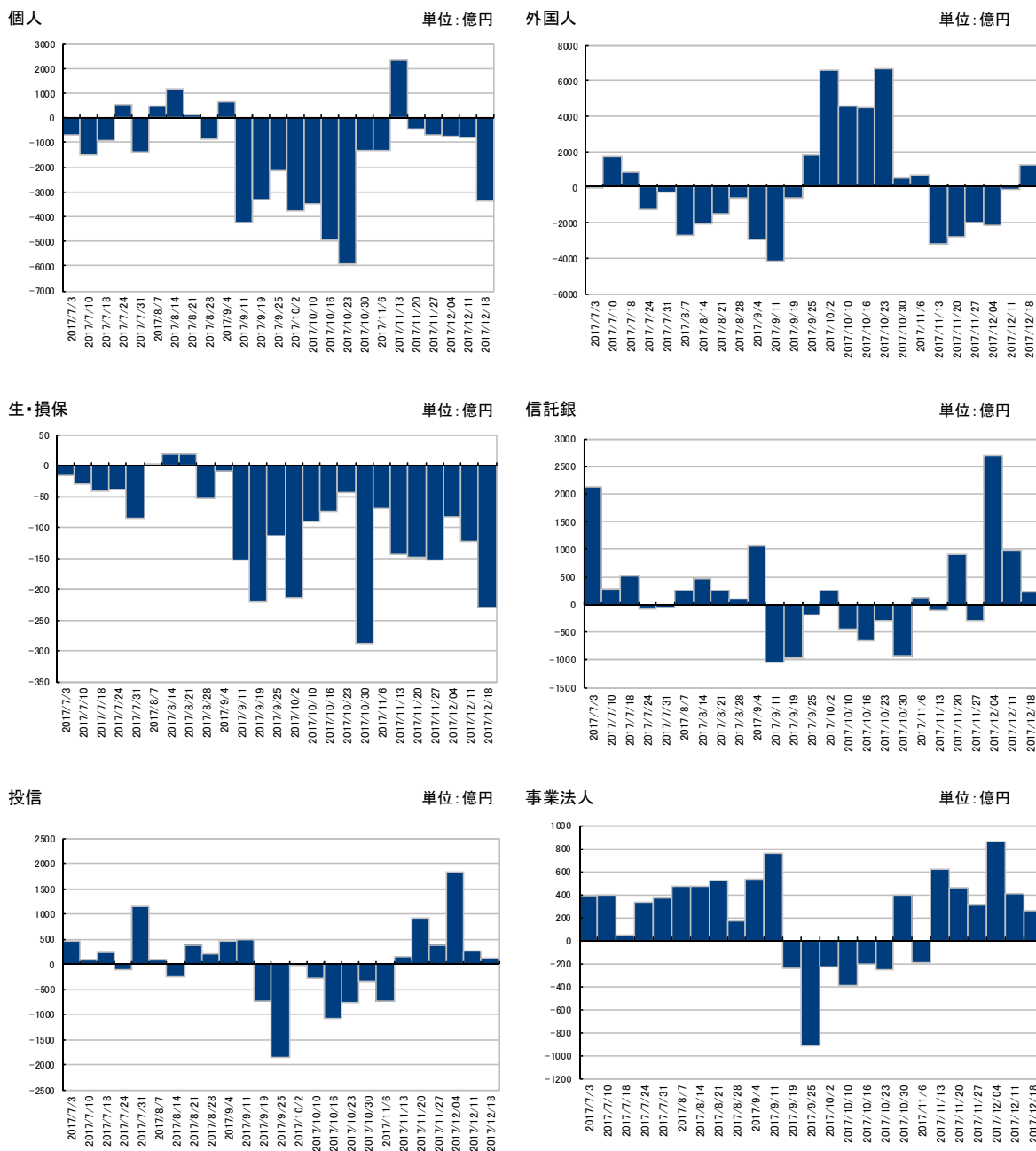
※下記のレーティングや目標株価は証券各社が発表したもののうち、フィスコが把握したものを集計しています。

日付	証券会社	コード	社名	レーティング	目標株価（円）
12月25日	SMBC日興	4708	りらいあ	1→2格下げ	1300
		9715	トランスコスモ	1→2格下げ	3700→2800
	いちよし	9449	GMO	A→B格下げ	-
	東海東京	9101	郵船	OUTPERFORM→NEUTRAL格下げ	2700→2830
1月5日	野村	4755	楽天	BUY→NEUTRAL格下げ	1470→1230

12月第3週:外国人投資家は総合で買い越しに転じた

12月第3週の投資主体別売買動向によると、外国人投資家は総合で1752億円と買い越しに転じた。現物についても買い越しに転じた。また、個人投資家は4089億円と売り越し継続。

その他、生・損保は144億円、投信は329億円と売り越し継続となった。都地銀は2627億円と買い越しに転じた。事法は177億円、信託は61億円と買い越し継続となった。自己は、現物買い、225先物、TOPIX先物売りで86億円と買い越し継続となった。この週の裁定残は、ネットベースで235億円増加の2兆7710億円となった。なお、週間の騰落率は日経平均で1.55%の上昇だった。



単位:億円

現物	日付	自己	個人	外国人	投信	事業法人	生・損保	都地銀	信託銀
	17/09/11	9,785	▲4,253	▲4,173	478	762	▲154	▲70	▲1,044
17/09/19	6,963	▲3,288	▲588	▲738	▲250	▲221	▲467	▲960	
17/09/25	4,170	▲2,160	1,831	▲1,843	▲921	▲115	▲592	▲180	
17/10/02	▲1,907	▲3,752	6,575	▲15	▲226	▲213	▲337	255	
17/10/10	563	▲3,475	4,594	▲288	▲396	▲91	▲91	▲441	
17/10/16	3,177	▲4,955	4,452	▲1,073	▲203	▲74	▲249	▲648	
17/10/23	1,438	▲5,951	6,704	▲778	▲251	▲43	▲170	▲299	
17/10/30	2,836	▲1,326	529	▲337	400	▲288	▲426	▲953	
17/11/06	2,162	▲1,315	671	▲747	▲200	▲70	▲174	118	
17/11/13	338	2,353	▲3,212	147	617	▲144	▲396	▲103	
17/11/20	1,010	▲434	▲2,820	922	452	▲149	▲70	918	
17/11/27	2,532	▲714	▲1,981	376	312	▲153	▲353	▲300	
17/12/04	▲2,473	▲750	▲2,168	1,822	858	▲84	▲91	2,689	
17/12/11	▲686	▲826	▲122	259	406	▲124	▲128	992	
17/12/18	2,071	▲3,340	1,224	105	253	▲231	▲112	240	

単位:億円

TOPIX 先物	日付	自己	個人	外国人	投信	事業法人	生・損保	都地銀	信託銀
	17/09/11	▲6,048	261	6,143	▲397	3	▲19	90	▲47
17/09/19	▲3,343	▲97	2,829	705	3	225	▲128	▲204	
17/09/25	▲3,159	225	▲1,293	860	▲3	▲49	63	3,382	
17/10/02	132	1	2,807	▲39	6	▲287	▲2,530	▲195	
17/10/10	▲2,478	90	1,766	▲267	▲2	35	2,482	▲1,728	
17/10/16	▲1,468	▲150	2,242	11	▲1	▲36	281	▲1,096	
17/10/23	▲2,517	143	2,561	▲176	▲2	▲16	▲130	174	
17/10/30	▲847	25	152	18	68	▲94	188	347	
17/11/06	▲592	37	631	520	67	102	▲171	▲746	
17/11/13	2,576	▲37	1,505	▲290	32	10	▲2,970	▲1,022	
17/11/20	936	60	▲159	▲187	1	▲44	61	▲645	
17/11/27	873	31	▲617	91	1	▲127	56	▲298	
17/12/04	1,654	▲2	1,177	▲1,261	▲37	229	2,947	▲4,563	
17/12/11	130	▲18	302	261	▲2	74	291	▲1,064	
17/12/18	▲1,159	▲15	▲1,180	▲199	▲3	52	2,319	280	

単位:億円

日経平均 先物	日付	自己	個人	外国人	投信	事業法人	生・損保	都地銀	信託銀
	17/09/11	▲1,018	▲648	3,982	▲1,738	▲100	▲132	109	▲422
17/09/19	▲2,080	▲103	5,963	▲2,721	42	▲51	▲419	▲565	
17/09/25	▲924	78	199	544	▲22	▲21	▲23	183	
17/10/02	▲1,383	▲222	1,573	▲831	▲17	0	479	364	
17/10/10	134	109	998	▲337	22	▲5	63	▲789	
17/10/16	▲827	▲469	1,976	▲112	22	▲0	204	▲755	
17/10/23	▲701	170	▲531	371	▲5	▲3	▲248	830	
17/10/30	▲2,708	551	1,423	774	▲35	73	▲70	13	
17/11/06	2,747	210	▲1,590	133	▲77	399	12	▲1,722	
17/11/13	274	33	▲1,807	1,013	1	18	311	284	
17/11/20	189	▲375	▲862	347	▲5	64	80	546	
17/11/27	▲861	650	▲291	351	11	18	134	28	
17/12/04	889	115	▲2,287	1,753	82	63	▲105	▲487	
17/12/11	4,627	527	▲4,636	▲869	50	0	▲194	207	
17/12/18	▲826	▲734	1,708	▲235	▲73	35	420	▲459	

※ データは直近の新規上場銘柄の結果とスケジュールを全て掲載しています。
証券会社によって取り扱いが異なりますので、お取引の際は各証券会社にご確認ください。

銘柄名	コード	市場	上場日	仮条件 (円)	公募株数 (株)	売出株数 (株)	公募価格 (円)	初値 (円)	主幹事	1/5終値 (円)
世紀	6234	東M	2/8	-	260,200	195,200	-	-	野村	-
事業内容:	射出成型合理化機器「ランナーレスシステム」の製造販売									

雲上抜け銘柄(東証1部)

コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)	コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)
1379	ホクト	2079	2055.25	1993.5	2001	日粉	1751	1750	1642.5
2269	明治HD	9710	9220	9650	2686	ジーフット	794	787.75	764.5
2908	フジッコ	2577	2562.75	2542.5	3076	あいHD	2825	2742.5	2585.5
3258	ユニゾHD	3135	2874.5	3134.5	3678	メディアドゥ	2489	2387.75	2141.5
3771	システムリサ	2235	2218.5	1936.5	3920	アイビーシー	1138	1042	1116
4523	エーザイ	6572	6078.25	6430.5	4997	日農薬	680	677	602.5
5210	日山村硝	194	191.5	186	5273	三谷セキ	2762	2752.25	2536
5406	神戸鋼	1124	1117.25	1051.5	5936	洋シヤター	627	625.75	582.5
6082	ライドオンE	1152	1055.75	1135.5	6097	ビューホテル	1414	1406.25	1375
6592	マブチモーター	6250	6090	5505	6703	OKI	1638	1621	1514
6789	ローランドDG	3160	2854.75	2828	6796	クラリオン	424	420.25	360
6849	日本光電	2705	2512.75	2699.5	6952	カシオ計	1710	1678.75	1503
6985	ユーシン	783	779	750.5	7004	日立造	611	575.5	587
7013	IHI	3870	3827.5	3440	7173	東京TYFG	3415	3303	3385.5
7184	富山第一銀行	543	526.5	507.5	7239	タチエス	2146	2042.25	1915
7550	ゼンショーHD	2008	1996.75	1831.5	7554	幸楽苑HD	1857	1844.75	1736.5
7897	ホクシン	204	203.5	187.5	8253	クレセゾン	2129	2127.25	1933.5
8303	新生銀	2033	1925	1805	8344	山形銀	2551	2466.25	2275
8345	岩手銀	4690	4488.75	4360	8346	東邦銀	408	406.25	393
8349	東北銀	1538	1527.5	1505	8359	八十二銀	677	676.75	593.5
8362	福井銀	2855	2800	2715	8365	富山銀	4490	4377.5	4125
8366	滋賀銀	597	586.25	567.5	8377	ほくほく	1817	1803	1692.5
8387	四国銀	1645	1583.75	1392.5	8410	セブン銀行	392	388.25	359.5
8521	長野銀	1988	1981.5	1962	8541	愛媛銀	1390	1381	1317.5
8542	トマト銀	1585	1563.25	1563	8543	みなと銀	2159	2123.25	1984.5
8551	北日本銀	3235	3195.75	2990	8589	アプラスF	118	110.25	110
8600	トモニHD	610	581.5	506.5	8604	野村	710	693	595.5
8706	極東証券	1683	1638.25	1502	8798	アドクリ	1965	1945	1682.5
8801	三井不	2713	2585	2448	8804	東建物	1599	1533.25	1396
9107	川崎船	2971	2892.5	2725	9301	三菱倉	3050	2981	3045
9437	NTTドコモ	2724	2684.75	2653.5	9479	インプレスH	160	154.5	153.5
9501	東京電力HD	458	453	454.5	9532	大瓦斯	2291	2205	2152.5
9765	オオバ	526	517.75	476.5	9788	ナック	997	974	920.5

雲下抜け銘柄(東証1部)

コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)	コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)
2734	サーラ	710	737.75	712	2792	ハニーズHD	1180	1195	1261.5
6189	グローバルG	1708	1718.25	2144.5	6924	岩崎電	1700	1872.5	1745
7280	ミツバ	1691	2044	1731.5					

【ご投資にあたって】

本レポート記載の内容に従ってお取引される場合、店舗における国内の金融商品取引所に上場する株式(売買単位未満を除く)の場合は約定代金に対して最大1.134%(税込み)(ただし、約定代金の1.134%に相当する額が2,700円(税込み)に満たない場合は2,700円(税込み))の委託手数料をご負担いただきます。

また、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の価格の変動等および有価証券の発行者の信用状況(財務・経営状況含む)の悪化等、それらに関する外部評価の変化等により損失が生じる恐れ(元本欠損リスク)があります。

なお、信用取引などを行う場合は、対象となる株式等または指標等の価格変動により損失の額がおお客様の差し入れた委託保証金などの額を上回るおそれ(元本超過損リスク)があります。なお、商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面やお客様向け資料をよくお読みください。

【免責事項】

- 本資料は株式会社フィスコ(以下「フィスコ社」という)独自の調査・判断に基づくものであり、ひろぎん証券株式会社による投資情報ではありません。そのためひろぎん証券は本資料の正確性、完全性について一切の責任を負うものではなく、また、本資料の情報に基づいて被ったいかなる損害についても一切の責任を負いません。
- フィスコ社が提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。また、掲載される情報はフィスコ社が信頼できると判断した情報源をもとに作成したものです。その内容及び情報の正確性、完全性または適時性について、フィスコ社は保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。
- 本文、データなどに関しましては、著作権法などの法律、規制により知的所有権が保護されており、個人の方の本来目的以外での使用や他人への譲渡、販売コピーは認められていません(法律による例外規定は除く)。
- 金融商品(投資信託・外貨預金・公共債等)は、価格の変動等により損失が生じるおそれがあります。
- 商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、金融商品をお申込の際は、当該商品等の契約締結前交付書面もしくは投資信託説明書(交付目論見書)の内容をよくお読みください。

私たちはお役に立つ情報提供を常に考え、行動しています。



商号等:ひろぎん証券株式会社
金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第20号
加入協会:日本証券業協会
本社 〒730-0032 広島市中区立町2-30 電話:082-245-5000(代)
<http://www.hirogin-sec.co.jp>

本店営業部	〒730-0032	広島市中区立町2-30	TEL:082-245-5000	可部支店	〒731-0221	広島市安佐北区可部5-13-12	TEL:082-815-2600
ゆめタウン 広島営業所	〒734-0007	広島市南区皆実町2-8-17 ゆめタウン広島内	TEL:082-252-8415	五日市支店	〒731-5127	広島市佐伯区五日市7-4-33	TEL:082-922-0161
コンサルティング 営業室 法人営業	〒730-0032	広島市中区立町2-30	TEL:082-245-5035	東広島支店	〒739-0014	東広島市西条昭和町3-21	TEL:082-422-3621
福山支店	〒720-0808	福山市昭和町1-1	TEL:084-922-1321	廿日市支店	〒738-0024	廿日市市新宮1-9-34	TEL:0829-31-6611
岡山営業所	〒700-0826	岡山市北区磨屋町1-3 広島銀行 岡山支店内	TEL:086-222-1561	岩国支店	〒740-0017	岩国市今津町1-9-26	TEL:0827-22-3161
府中支店	〒726-0004	府中市府川町337-1	TEL:0847-45-8500	徳山支店	〒745-0015	周南市平和通2-33	TEL:0834-31-5350
尾道支店	〒722-0035	尾道市土堂1-11-17	TEL:0848-23-8121	防府支店	〒747-0801	防府市駅南町4-1	TEL:0835-22-2871
因島支店	〒722-2323	尾道市因島土生町塩浜1894-10	TEL:0845-22-2291	宇部支店	〒755-0043	宇部市相生町3-15	TEL:0836-31-1105
竹原支店	〒725-0026	竹原市中央1-5-3	TEL:0846-22-2295	萩支店	〒758-0027	萩市吉田町64-2	TEL:0838-25-2121
三原営業所	〒723-0014	三原市城町1-25-1 広島銀行三原支店内	TEL:0848-67-6681	浜田支店	〒697-0024	浜田市黒川町4185	TEL:0855-22-1515
呉支店	〒737-0046	呉市中通2-4-13	TEL:0823-21-6401	東京支店	〒103-0026	中央区日本橋兜町21-7	TEL:03-3668-7551
三次支店	〒728-0013	三次市十日市東1-2-48	TEL:0824-62-3121				

ネットセンター(インターネット取引) <http://www.hirogin-sec.co.jp>

コールセンター(コール取引) フリーアクセス:0120-506-084

資料作成:株式会社フィスコ

■本レポートに関するお問合せ■

株式会社フィスコ 営業開発部

電話:03-5774-2463 E-mail: eigyo@fisco.co.jp

〒107-0062

東京都港区南青山5-4-30 CNAC2F

